

2025年度COILプログラム実施報告

教育の理念と実践の一体化：日本×カンボジア IBL共同研究プログラム

2025-2026 Academic Year

岡本 義裕 准教授
研究指導3・4年（教職関係）

📌 プロジェクト概要

連携先	コンポントム州PTTC(Provincial Teacher Training Center) [カンボジア]
対象規模	日本15 / カンボジア58
使用言語	英語 (English)
ツール	Zoom

🎯 実施のねらい

日・カのエの教育背景の差異を活かし、IBL（探究型学び）の実践をリアルタイムで提示・意見交換。教職志望者としての「学びの指針」への理解を深め、実践基盤を共同獲得する。

【重点】

学力観や学習館の相違を確かめ合い、多角的な教育観を醸成する。

🏆 主要な学修成果

- 📌 理論と実践の融合
抽象概念を対話により具体的な「指導案」へ昇華。
- 📌 国際的視座の獲得
異なる価値観下での学びの本質を多角的に分析。
- 📌 ICT遠隔協働力
高度なデジタルツール活用スキルの定着。
- 📌 対話による省察
他者への説明を通じ、自国の教育文化を再考。

📅 3段階の具体的交流プロセス

2025.06
第1回

認識共有と方向性の策定

- ・お互いのIBLに関する学修状況の相互プレゼン
- ・共同研究に取り組む上での具体的目標と方向性の合意
- ・今後のロードマップおよび実践提示形式の基本ルール策定

2026.01
第2回

進捗報告と相互参観に向けた準備

- ・現時点でのIBL実践計画（指導案等）の具体的提示と報告
- ・学習展開を構想する上での「難しさ」「工夫」の意見交換
- ・次回参観時の「特に着目してほしい箇所」の相互提示

2026.03
第3回

実践発表とハイブリッド事後協議会

- ・ゼミ生代表：カンボジア現地へ渡航し模擬授業を実践
- ・PTTC学生：教育実習授業の様子をオンライン相互公開
- ・全体：現地とオンラインを統合した国際事後協議会の実施
- ・アーカイブ：成果共有と継続的研究コミュニティの形成